

2007年吉備国際大学政策マネジメント学部 専任教員業績一覧 (五十音順)

以下は、本学部の専任教員が2007年1月1日から2007年12月31日の間に行なった研究及び教育、社会貢献活動の一覧です。紀要委員会が専任教員に依頼し、任意の自己申告にもとづいて作成しました。

研究、教育、社会貢献活動は次のように分類しています。①著訳書、②学術論文、③報告書、④学会発表、⑤書評論文、⑥雑誌、⑦新聞、⑧公開講座、⑨放送、⑩講演。

荒田 鉄二 (あらた てつじ)

③報告書

- (1) 「持続可能な社会形成に役立つ日本の伝統的知恵の発掘とその国際貢献のための研究第一次報告書」(分担執筆) NPO法人 環境文明21 (代表: 加藤三郎)、2007年1月

⑥雑誌

- (1) 「データで見る国と都市の適正規模」(単著) 『環境と文明』2007年4月号、2007年4月15日
 (2) 「日本の知恵 学生アンケート報告」(単著) 『環境と文明』2007年12月号、2007年12月15日

⑩講演

- (1) 「吉備国際大学・九州保健福祉大学におけるキャリア教育推進の構想と展望」第3回高梁学園学術研究コンファレンス、2007年3月9日、於: 九州保健福祉大学
 (2) 「食卓から考える環境問題」環境講演会、2007年11月19日、於: 岡山県立高梁高校
 (3) 「吉備国際大学のキャリア教育について」吉備国際大学 第1回キャリア教育説明会、2007年12月1日、於: 吉備国際大学

井勝 久喜 (いかつ ひさよし)

④学会発表

- (1) 「ESDの認知率とその関連要因－岡山市民を対象とした質問紙調査－」日本環境教育学会第18回大会、2007年5月26日、於: 鳥取市 (連名発表)

⑨放送

- (1) 「まるごと吉備国 ラジオDEゼミナール: 環境経営と地球環境問題」山陽放送、2007年10月20日、27日放送

⑩講演

- (1) 「人間と自然が共に生きるしくみ」高大連携事業、2007年1月22日、於: 岡山県立倉敷中央高等学校
 (2) 「化学物質って危ないの? ～化学物質問題のウソ・ホント～」岡山市中央公民館 環境講座、2007年2月19日、於: 岡山市中央公民館
 (3) 「考えよう、化学物質との付き合い方 ～身の回りの化学物質と賢く付き合う～」岡山市中央公民館環境講座、2007年3月12日、於: 岡山市中央公民館
 (4) 「大学で学ぶこと、高校で学ぶこと」高大連携事業、2007年6月11日、於: 岡山県立落合高等学校

- (5) 「地球環境問題と企業経営 ～企業の社会的責任と環境経営～」中国電力岡山電力所環境講演会、2007年6月15日、於：中国電力岡山電力所
- (6) 「地球環境の現状と環境経営の意義」エコアクション21地域事務局倉敷環境経営セミナー、2007年6月29日、於：高梁市文化交流館
- (7) 「ほんとうのゴミ問題」高梁市青年経済協議会環境講演会、2007年11月7日、於：高梁商工会議所
- (8) 「環境経営」島根県立松江商業高等学校PTA研修、2007年11月18日、於：吉備国際大学
- (9) 「産業廃棄物処理の現状と課題」社会人講師活用事業、2007年12月18日、於：岡山県立東岡山工業高校

大谷 卓史 (おおたに たくし)

②学術論文

- (1) 「インターネットにおける匿名性はいかに正当化されるか？」『吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要』第3号(2007年)、43-58.

③報告書

- (1) 「数理科学史サマースクール きっと見つかる「わたしの科学史」(分担執筆：「コンピュータ科学史をめぐって：コメント」) 数学史研究会(事務局：中根美千代)、2007年12月25日

④学会発表

- (1) 「情報セキュリティ」、第9回新通史フォーラム研究会(科学研究費補助金基盤研究(B)「持続可能社会へ向けた日本の科学技術の転換の社会史的研究(1995～2005)」(研究代表者：吉岡齊九州大学教授))、平成19年2月22日、於：東京都目黒区国立教育政策研究所(単著)
- (2) 「技術標準における競争と協調」、第12回新通史フォーラム研究会(科学研究費補助金基盤研究(B)「持続可能社会へ向けた日本の科学技術の転換の社会史的研究(1995～2005)」(研究代表者：吉岡齊九州大学教授))、平成19年6月3日、於：東京都目黒区国立教育政策研究所(連名発表、登壇者)
- (3) 「コンピュータ科学史をめぐって：コメント」数理科学史第1回サマースクール(数学史研究会主催)、平成19年8月29日、於：東京都豊島区立教大学(単著)
- (4) 「技術標準における競争と協調」、第18回新通史フォーラム研究会(科学研究費補助金基盤研究(B)「持続可能社会へ向けた日本の科学技術の転換の社会史的研究(1995～2005)」(研究代表者：吉岡齊九州大学教授))、平成19年12月9日、於：東京都目黒区国立教育政策研究所(連名発表、登壇者)

⑤書評論文

- (1) 「幹細胞研究は人間のための技術になれるか 書評：クリストファー・T. スコット著、矢野真千子訳『ES細胞の最前線』、アン・B. パーソン著 渡会圭子訳、谷口英樹監修『幹細胞の謎を解く』、『バイオニクス』2007年2月号、2007年1月22日、p.82.
- (2) 「ブックレビュー ダン・ロイド著、谷徹・谷優訳『マインド・クエスト 意識のミステリー』、『ロボコンマガジン』No.50、2007年2月15日、p.133.
- (3) 「人類史のナラティブを求めて 書評：斎藤成也・諏訪元・颯田葉子・山森哲雄・長谷川眞理子・岡ノ谷一夫著『シリーズ進化学5 ヒトの進化』アルフレッド・W.クロスビー著 小沢千重子訳『飛び道具の人類史 火を投げるサルが宇宙を飛ぶまで』、『バイオニクス』2007年3月号、2007年2月22日、p.92.
- (4) 「書評 『イノベーション 悪意なき嘘』、『技術と経済』No.482、2007年4月号、2007年4月1日、p.53.

- (5) 「ブックレビュー リクナビNEXT Tech総研編、『我らクレイジー★エンジニア主義』『ロボコンマガジン』No.51, 2007年4月15日, p.122.
- (6) 「左利きのアミノ酸から利き手の謎まで-左右の博物誌を読む 書評: クリス・マクナマス著、大貫昌子訳『非対称の起源-偶然か必然か』、デイヴィッド・ウォルマン著 梶山あゆみ訳『「左利き」は天才? -利き手をめぐる脳と進化の謎』『メディカル・バイオ』2007年5月号、2007年4月22日, p.114.
- (7) 「書評 『中国におけるホンダ二輪・四輪生産と日系部品企業 ホンダおよび関連企業の経営と技術の移転』『技術と経済』No.482、2007年4月号、2007年5月1日、p.53.
- (8) 「ブックレビュー 廣瀬通孝著、『ヒトと機械のあいだ ヒト化する機械と機械化するヒト (シリーズヒトの科学2)』『ロボコンマガジン』No.52, 2007年6月15日, p.121.
- (9) 「クオリアが生まれるところ-意識は脳のどこにあるのか? 書評: ニコラス・ハンフリー著、柴田裕之訳『赤を見る 感覚の進化と意識の存在理由』、ジェラルド・M. エーデルマン著 冬樹純子訳、豊島良一監修『脳は空より広いか 「私」という現象を考える』『メディカル・バイオ』2007年7月号、2007年6月22日, p.118.
- (10) 「書評 『NASAを築いた人と技術 巨大システム開発の技術文化』『技術と経済』No.485、2007年7月号、2007年7月1日、p.56.
- (11) 「書評 『ドロッカー名著集5 イノベーションと企業家精神』『技術と経済』No.486、2007年8月号、2007年8月1日、p.61.
- (12) 「ブックレビュー 福島聡著『機動旅団八福神』第1巻~第6巻』『ロボコンマガジン』No.53, 2007年8月15日, p.125.
- (13) 「健康情報やリスク情報に踊らされる私たちの社会 書評: 松永和紀著『メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学』、小島正美著『アルツハイマー病の誤解 健康に関するリスク情報の読み方』『メディカル・バイオ』2007年9月号、2007年8月22日, p.116.
- (14) 「書評 『超波及度で世界を変えたイノベーター』『技術と経済』No.487、2007年9月号、2007年9月1日、p.55.
- (15) 「ブックレビュー 井上晴樹著『日本ロボット戦争記 1939~1945』『ロボコンマガジン』No.54, 2007年10月15日, p.117.
- (16) 「ヒト起源の研究で揺らぐ私たちの「自己像」 書評: アン・ギボンズ著、河合信和訳『最初のヒト』、ドナ・ハート、ロバート・W. サスマン著、伊藤伸子訳『ヒトは食べられて進化した』『メディカル・バイオ』2007年11月号、2007年10月22日, p.116.
- (17) 「書評 『持続可能な福祉社会』『技術と経済』No.489、2007年11月号、2007年11月1日、p.62.
- (18) 「ブックレビュー スティーヴ・スクワイヤーズ著、桃井緑美子訳『ローバー、火星を駆ける 僕らがスピリットとオポチュニティに託した夢』『ロボコンマガジン』No.55, 2007年12月15日, p.126.
- (19) 「脳を繋ぎ、脳を読むことで、私たちはどのように変わるのか? 書評: 「脳を活かす」研究会著『ブレイン・デコーディング 脳情報を読む』、同著『ブレイン・インタフェース 脳と機械をつなぐ』『メディカル・バイオ』2008年1月号、2007年12月22日, p.108.

⑩講演

- (1) 「YouTubeで著作権を学ぶ」岡山県立高梁高校「知的財産」についての特別授業、2007年11月19日、11月22日、於：岡山県立高梁高校

⑪その他

- (1) 「技術史から見たP2P技術 (特集 P2P技術の基礎知識 (2))」(単著)『UNIX Magazine Classic with DVD×4』アスキー、2007年9月(再録)。

岡崎 郁子 (おかざき いくこ)

①著訳書

- (1) 「鄭清文の創作童話－從孤兒意識與生態保護的觀點論起」江寶釵・林鎮山主編『樹的見證－鄭清文文學論集』麥田出版、2007年3月1日、167-185(共著)
- (2) 「黃靈芝在台湾文學中的地位以及『宋王之印』出版始末記」「黃靈芝略年譜」『第10屆台灣文學家牛津獎暨黃靈芝文學國際學術研討會資料彙集』真理大學台灣文學系、2007年1月、159-165(共著)
- (3) 「劉大任『浮游群落』に見る六〇年代台灣青年の思想と行動」山田敬三先生古稀記念論集刊行會編發行『南腔北調論集－中國文化の傳統と現代』2007年7月1日、705-727(共著)

②學術論文

- (1) 「鄭清文の創作童話－孤兒意識と生態保護の視点から」『吉備國際大學政策マネジメント学部研究紀要』第3号2007年3月31日、59-68

⑤書評論文

- (1) 「徐錦成著『鄭清文童話現象研究－台灣文學史的思考』(2007年)の紹介－童話在台灣文學史如何定位?－」『國語日報』(第4面)2007年7月22日

⑥雜誌

- (1) 「『宋王之印』出版顛末記」『燕巢』第52卷第8号、2007年8月25日、114-117

⑧公開講座

- (1) 「台灣の日本語人とその作品」平成17年度吉備國際大學公開講座「備中おもしろ文化講座」2007年6月23日、於高梁市総合福祉センター

⑪その他

- (1) 推薦文「原本から見えてくる台灣文學の眞の姿」『日本統治期台灣文學集成』第2期全10卷、綠蔭書房、2007年2月25日

小田 淳子 (おだ じゅんこ)

①著書

「地球の環境と化学物質」安原昭夫、小田淳子(共著)、(三共出版)、2007年9月25日
(ISBN4-7827-0543-8)

④学会発表

- (1) 「エコ事業所認定制度による企業(小売店)の環境配慮行動の評価」
環境経済・政策学会2007年大会 2007年10月7(日)～8(月)
於：彦根市(滋賀大学経済学部)

⑩講演

- (1) 「地球の大気を探る・オゾン層の破壊」高校出張講義、2007年7月24日(火)、於：岡山県立落合高校(看護科3年)

- (2) 「生活の中の化学物質とのつきあい方」 高校出張講義、2007年7月24日（火）、於：岡山県立矢掛高校（1年）
- (3) 「身の回りの化学物質とのつきあい方 ～危ないってほんと～」 岡山市旭東公民館「二十一世紀を生き抜くためにあなたは どうする」 講座、2007年9月10日（月）、於：岡山市西大寺旭東公民館
- (4) 「気体分析の化学 ～環境計測を中心として～」 岡山大学薬学部博士前期課程・薬品分析化学・特別講義、2007年9月27日（木）、於：岡山大学薬学部（岡山市津島）
- (5) 「大気のみでみる地球温暖化問題」 高校出張講義、2007年11月15日（木）、於：岡山県立大安寺高校（普通科2年）
- (6) 「くらしと環境の関わりー日常生活が与える環境への負荷ー」 浅口市市民カレッジ、2007年12月21日（金）、於：浅口市金光公民館

加藤 雅彦（かとう まさひこ）

②学術論文

- (1) Application of HACCP to the control of medical waste generated from endoscopy. (共著, 第一著者) 『吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要』第3号（2007年）, 69-77

④学会発表

- (1) 「食品衛生講習の方法および評価についてー講習マニュアルの作成ー」 第11回岡山リサーチパーク研究・展示発表会、2007年1月26日、於：岡山市（単著, 口演発表者）
- (2) 「調理施設における食の安全に関するリスクコミュニケーションの検討」 第94回日本食品衛生学会学術講演会、2007年10月27日、於：静岡市（連名発表, 連名著者）
- (3) 「調理施設における清掃SSOPの評価」 第94回日本食品衛生学会学術講演会、2007年10月27日、於：静岡市（連名発表, 連名著者）
- (4) 「動物由来医療廃棄物のリスクとマネジメントに関する研究（第1報）」 岡山理科大学OUSフォーラム2007、2007年11月22日、於：岡山市（連名発表, 口演発表者）

⑥雑誌

- (1) 「会員の声 医療廃棄物管理とガイドライン」(単著) 『医療廃棄物研究』第20巻・第1号・p57, 2007年10月17日
- (2) 「吉備国際大学大学院国際協力研究科（通信制） FROM Professor」 『国際協力ガイド2009』 p139, 2007年10月20日

⑧公開講座

- (1) 報告演題「BSE対応による食肉関係廃棄物」 岡山大学21世紀COEプログラム主催「環境科学技術シンポジウム2007」 感染症セッション, 2007年1月19日
- (2) 「実験動物」 平成19年度吉備国際大学第1回動物実験講習会, 2007年10月3日
- (3) 「感染性廃棄物」 平成19年度日本実験動物技術者協会関西支部秋季岡山大会セミナー「これからの感染性廃棄物処理」, 2007年10月21日、於：倉敷市

剣持 貴弘 (けんもつ たかひろ)

①著訳書

- (1) “Sputtering” (分担執筆), “Reactive Sputter Deposition”, Springer

②学術論文

- (1) 「イオン加速グリッドにおけるスパッタリング解析に向けて」

百武徹, 西田 迪雄, 剣持 貴弘, 村本 哲也,

宇宙航空研究開発機構特別資料, JAXA-SP-06-019, pp.59-63, 2007.

高橋 選哉 (たかはし えりや)

①著訳書

- (1) 「Ⅱ-3 減損処理と陳腐化償却」(分担執筆・齋藤真哉編著)『減損会計の税務論点』(中央経済社)、2007年、75-82

- (2) 「V-5 オーストラリア」(分担執筆・齋藤真哉編著)『減損会計の税務論点』(中央経済社)、2007年、225-236

⑥雑誌

- (1) 「情報公開と社会的責任」(単著)『月刊公益法人』2007年3月号(第38巻・第3号)、2007年3月1日。

橋本久美子 (はしもと くみこ)

②学術論文

- (1) ‘Ionospheric plasma convection observed by HF radar network in the northern polar region’, Hashimoto, K. K., T. Kikuchi, M. Kunitake, K. Ohtaka, S. Watari, J. Nat. Inst. Inform. Comm. Tech., vol.54, No. 1/2, p.117-126, 2007.

- (2) ‘Space weather study using the HF radar in King Salmon Alaska’, Kikuchi, T., K. K. Hashimoto, M. Shinohara, K. Nozaki, and B. Bristow, J. Nat. Inst. Inform. Comm. Tech., vol.54, No. 1/2, 127-137, 2007.

- (3) 「内部磁気圏電離圏結合系における対流発達過程」、橋本久美子、吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要、第3号、P.9-18、2007

- (4) 「電離圏における対流電場の過遮蔽」、石川裕子、橋本久美子、菊池崇、国武学、大高一弘、渡辺堯、吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要、第3号、P.31-41、2007

- (5) 「北極域HFレーダー観測による電離圏対流の変動」、橋本久美子、菊池崇、国武学、大高一弘、亘慎一、情報通信研究機構季報、vol.53、P.103-111、2007

- (6) 菊池崇、橋本久美子、篠原学、野崎憲朗、B. Bristow, 『アラスカKing Salmonレーダーによる宇宙天気の研究』, 情報通信研究機構季報Vol.53.No.1/2, 113-121, 2007

- (7) 「IMF北向き変動にともなう遮蔽電場のライフタイム」、橋本久美子、菊池崇、石川裕子、第2回磁気圏-電離圏複合系における対流に関する研究会抄録、p.139-145, 2007

④学会発表

- (1) ‘Global DP2 electric field during geomagnetic storm’, Hashimoto, K. K., T. Kikuchi, K., Chapman会議 “Mid-Latitude Ionospheric Dynamics and Disturbances”, (アメリカ), 2007年1月4日 (連名発表、登壇者)

- (2) 'Storm phase dependence of penetration of magnetospheric electric fields to mid and low latitudes', Kikuchi, T., K. K. Hashimoto, and K. Nozaki, Chapman会議Mid-Latitude Ionospheric Dynamics and Disturbances (アメリカ), 2007年1月5日 (連名発表、連名著者)
- (3) 「サブオーロラ帯における対流電場の過遮蔽」, 橋本久美子, 菊池崇, 石川裕子, 大高一弘, 国武学, 日本地球惑星科学連合2007年大会 (千葉), 2007年5月20日 (連名発表、登壇者)
- (4) 'Life time of the shielding electric field during an isolated southward IMF event as observed by SuperDARN and magnetometer network', Hashimoto, K. K., T. Kikuchi, Y. Ishikawa, K. Ohtaka, M. Kunitake, SuperDARN極域短波レーダー国際会議2007 (北海道), 2007年6月8日 (連名発表、登壇者)
- (5) 'Penetration of storm-time electric field to low latitude', Kikuchi, T., Y. Ebihara, K. K. Hashimoto, K. Ohtaka, K. Kitamura, SuperDARN極域短波レーダー国際会議2007 (北海道), 2007年6月6日 (連名発表、連名著者)
- (6) "Penetration of storm-time electric field from high latitude to the equator", 菊池崇, 海老原祐輔, 橋本久美子, 大高一弘, 極地研シンポジウム (東京), 2007年7月16日 (連名発表、連名著者)
- (7) 'Stormtime electric fields at high-equatorial latitudes as observed by the magnetometers, incoherent scatter radar and satellite', T. Kikuchi, K. K. Hashimoto, A. Shinbori, and B. Fejer, 第4回アジアオセアニア地球物理学会 (タイ), 2007年7月31日 (連名発表、連名著者)
- (8) 「磁気圏電場による磁気嵐時の赤道磁場準周期変動」, 菊池崇, 海老原祐輔, 橋本久美子, 大高一弘, 地球電磁気・地球惑星圏学会第122回講演会 (愛知), 2007年9月29日 (連名発表、登壇者)
- (9) 「IMF北向き変動に伴う遮蔽電場の継続時間」橋本久美子, 石川裕子, 菊池崇, 大高一弘, 国武学, 地球電磁気・地球惑星圏学会第122回講演会 (愛知), 2007年9月30日 (連名発表、登壇者)
- (10) 'Penetration of magnetospheric electric fields to low latitude ionosphere during storm/substorms as observed with the IMAGE-equatorial magnetometer array', Kikuchi, T., K. K. Hashimoto, M. Shinohara, K. Nozaki, IMAGE磁力計ネットワーク観測国際シンポジウム (ドイツ), 2007年10月9日 (連名発表、連名著者)
- (11) 'Overshielding associated with substorm expansion phase', K. K. Hashimoto, T. Kikuchi, K. Ohtaka, and M. Kunitake, IMAGE磁力計ネットワーク観測国際シンポジウム (ドイツ), 2007年10月9日 (連名発表、登壇者)
- (12) 'Penetration of magnetospheric electric fields to the equator during a geomagnetic storm', Kikuchi T., K. K. Hashimoto, and Kenro Nozaki, CAWSES国際シンポジウム (京都), 2007年10月22日
- (13) 「低緯度赤道電離圏における磁気嵐電場について」 菊池崇, 橋本久美子, 野崎憲朗, 第3回磁気圏電離圏対流に関する研究会, (岡山) 2007年11月26日 (連名発表、連名著者)
- (14) 「サブストームにともなう遮蔽電場の発達」 菊池崇, 橋本久美子, 野崎憲朗, 第3回磁気圏電離圏対流に関する研究会, (岡山) 2007年11月26日 (連名発表、連名著者)

⑩講演

- (1) 「近い未来の新エネルギー・進歩する宇宙利用」2007年1月22日、於：岡山県立東岡山工業高等学校
- (2) 「地球環境科学入門」2007年5月30日、於：広島県三次青陵高等学校
- (3) 「地球環境科学入門」2007年10月29日、於：岡山県立落合高等学校

藤原 福一 (ふじわら ふくいち)

②学術論文

- (1) 「資源環境と中国歴史のあゆみ」(共著) 『吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要』第3号(2007年)、91-100

⑩講演

- (1) 中国四国地域農林水産関連企業公害防止管理者等研修会、2007年8月23日、於：中国四国農政局

眞島 宏明 (まじま ひろあき)

②著書

- (1) 「商標権侵害①他社の商標権を侵害してしまった場合の対応」・「商標権侵害②自社の商標権が侵害された場合の対応」(分担執筆)『社長の為の経営百科 経営実務ガイド』(日経BP) 2007年12月、128-133

⑦新聞

- (1) 「-小売業のブランド登録- ブランド登録最前線 進化する商標登録システム1」(単著)『日刊工業新聞』朝刊、2007年8月22日
- (2) 「-地域ブランドの商標登録- ブランド登録最前線 進化する商標登録システム2」(単著)『日刊工業新聞』朝刊、2007年8月29日
- (3) 「-使われない登録商標- ブランド登録最前線 進化する商標登録システム3」(単著)『日刊工業新聞』朝刊、2007年9月5日
- (4) 「-国際的ブランド登録- ブランド登録最前線 進化する商標登録システム4」(単著)『日刊工業新聞』朝刊、2007年9月12日

⑩講演

- (1) 「知的財産セミナー 知的財産の世界へ」近畿経済産業局主催、2007年10月29日、於：甲南大学

宮川 雅充 (みやかわ まさみつ)

②学術論文

- (1) 「音源別の住民反応に基づいた音環境の評価方法—階層的クラスタ分析の適用—」(共著、第一著者)『環境衛生工学研究』第21巻3号(2007年)、99-102
- (2) “Salivary chromogranin A as a measure of stress response to noise,”(共著、第一著者), Noise & Health, Jul-Sep 2006, 8 (32), 108-113 (2006) ※出版は2007年
- (3) “The development of Weinstein's noise sensitivity scale,”(共著、連名著者), Noise & Health, Oct-Dec 2006, 8 (33), 154-160 (2006) ※出版は2007年

④学会発表

- (1) 「ESDの認知率とその関連要因—岡山市民を対象とした質問紙調査—」日本環境教育学会第18回大会、2007年5月25日～27日、於：鳥取市(連名発表、登壇者)
- (2) “Relationship between psychiatric disorder and disturbances of daily life due to aircraft noise exposure,” Inter-noise 2007, 2007年8月28日～31日、於：イスタンブール(トルコ共和国)(連名発表、登壇者)
- (3) “Noise sensitivity and subjective health,” Inter-noise 2007, 2007年8月28日～31日、於：イスタンブール(トルコ共和国)(連名発表、連名著者)

⑥雑誌

- (1) 「音環境研究の現在と学融的連携を目指した対話」(共著, 連名著者) サウンドスケープ 9, 25-32
(2007)

⑩講演

- (1) 「質問紙調査とその研究への応用」(高校2年生対象), 2007年3月9日, 於: 吉備国際大学
(2) 「環境と健康の関わりを考えてみよう」(高校2年生対象), 2007年6月6日, 於: 吉備国際大学

村本 茂樹 (むらもと しげき)

②学術論文

- (1) 「環境ホルモン様化学物質のファイトレメディエーションに関する研究」(単著) 『吉備国際大学政策マネジメント学部紀要』第3号 (2007年)、79-89
(2) 「産業廃棄物堆積場下流の水質変化の推移」—岡山県真備町のケーススタディー (単著) 『吉備国際大学政策マネジメント学部紀要』第3号 (2007年)、101-111

⑦新聞

- (1) 「まちごと大学」(単著) 『山陽新聞』、2007年6月19日
(2) 「住みよい大学町・高梁に」(単著) 『山陽新聞』、2007年11月18日

⑧公開講座

- (1) 「高梁体験・学習観光における環境を活かしたまちづくり」、2007年2月8日、於: 高梁市文化交流会館
(2) 「ジュニア優秀者育成の要件」岡山県指導者サミット、2007年月4日、於: サンビーチ岡山

⑪その他 (出張講義)

- (1) 「合宿型実践活動によるスキルアップ効果」第2回高梁学園学術カンファレンス、2007年3月9日、於: 九州保健福祉大学
(2) 「水環境からのサイン」岡山県立矢掛高校、2007年2月4日

森 一憲 (もり かずのり)

②学術論文

- (1) 「中国現代法における固有法の影響」(単著) 『吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要』第3号 (2007年)、113-119

⑩講演

- (1) 「日中の会社法・証券法(金融商品取引法)からみた株主の知る権利」、2007年9月22日、於: 上海交通大学(中国上海市), アジア法研究会(会員は日本法を研究している中国人学者・弁護士)にて

森野 真理 (もりの まり)

①著訳書

- (1) 「第10章 野生動物リスクの評価・管理事例」(分担執筆)、『生態環境リスクマネジメントの基礎』(オーム社) 129-140
(2) 「第4章 リスクマネジメントの基本手順」(分担執筆)、『生態環境リスクマネジメントの基礎』(オーム社) 43-54

②学術論文

- (1) 「林業関係者の意識が森林管理に及ぼす影響」(共著、第一著者)『吉備国際大学政策マネジメント学部紀要』第3号(2007年)、111-117

③報告書

- (1) 「森林利用の分布特性と管理主体に注目した森林管理放棄の要因分析」(単著)財団法人 八雲環境科学振興財団「研究レポート集」8(2007年)、20-27
- (2) 「屋久島を例とした猿害発生リスク評価」(共著、第一著者)文部科学省21世紀COEプログラム『生物・生態環境リスクマネジメント』成果報告書、横浜国立大学大学院環境情報研究院(2007年)、210-214

④その他

- (1) 「猿害リスクの評価手法の開発」(登壇者)第1回保全生物学セミナー、2007年1月27日、於：徳島大学
- (2) 「森林利用の分布特性と管理主体に注目した森林管理放棄の要因分析」(登壇者)財団法人 八雲環境科学振興財団研究発表会、2007年11月12日、於：岡山大学
- (3) 「小規模林家における森林管理放棄の特性分析」(登壇者)岡山理科大学 OUSフォーラム2007、2007年11月22日、於：岡山プラザホテル

吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要投稿要領

【1】 投稿資格

本紀要への投稿は、原則として本学教員（教授、助教授、講師、助手）及びその関係者に限るが、紀要委員会が認めた場合にはその限りではない。

【2】 紀要の発行など

原則として、投稿申し込みは各年度6月末、原稿提出は10月末日、紀要発行は翌年の3月とする。

【3】 掲載の採否・順序

掲載の採否・順序などは紀要委員会で決定する。

【4】 原稿の種類

原稿の種類は、総説、原著論文、資料、研究ノートとする。

【5】 原稿一般規定

1. 原 稿

原稿は原則的に横書きとし（縦書きも可）、一般的なワードプロセッサやエディタによって作成する。フロッピーディスクなどの電子媒体とハードコピー2部を提出する。著者は原稿のコピーを作成して手元に保管する。

2. 使用言語

使用言語は、日本語ならびに英語とする。

3. 分 量

原則として、図表を含A4版約8ページ以内（日本語で400字詰め原稿用紙で約40枚程度）とする。

4. スタイル

- 1) 原稿1ページ目に表題、著者名、著者の所属（共著の場合は各著者に番号や記号を付け、責任者名の右肩にアスタリスク「*」をつける。）キーワード（5語以内）を記す。いずれも欧文を付ける。
- 2) 原稿末尾には欧文要約（300語以内）をつける。表題、著者名、所属、研究目的・方法及び結果を理解できる内容とする。要約はダブルスペースで作成し、イタリック、ゴシック、ギリシア文字等には下線を付す。
- 3) 外国人や外国地名はよく知られたもののほかは、初出の箇所にその原綴りをかっこに入れて記す。
- 4) 節、項には算用数字を用いて、それぞれ1.（1）のように記す。
- 5) 計量単位は、原則として国際単位系（SI）を用い、必ず半角で記述する。
- 6) 数を表示する場合は、原則として算用数字を用い、半角で記述する。箇条書き番号も同様にする。
- 7) 西暦以外の年号を使用する場合は、昭和5年（1930年）のように表記する。
- 8) 注（註）が必要な場合には本文中の該当箇所右肩に（1）、（2）…のように順を記し、本文、謝辞の後、参考文献の項目の前に一括掲載する。
- 9) 図版および写真は、そのまま製版可能なように作成し、通し番号をつけキャプションをつける。通常、図版と写真は図として取扱い、キャプションは図の左下からはじめる。画像ファイルの場合、刷り

上がりを考慮して、適当な大きさに著者側で調整する。写真は、ネガのみでなく、ポジも同時に提出する。カラー図版を使用する場合、費用は著者が負担する。

10) 表は、そのまま製版可能なように作成し、通し番号をつけ、キャプションは表の左上からはじめる。表は直接本文中に挿入しておいてもよい。

11) 引用・参考文献の表記は、各分野のスタイルを尊重する。注（註）以外に引用・参考文献表を置く場合、著者アルファベット順、同一著者の場合には刊行年順に〔1〕,〔2〕……のように順を記して、本文、謝辞の後、欧文要約の前に置く。

5. 校 正

原則として投稿論文の校正は筆者に依頼する。報告書の校正については、担当者に依頼することもある。校正は、紀要委員会で定めた期日までに必ず返却する。

6. 別刷り

執筆者には、紀要誌2部、別刷り30部を贈呈する。30部を超える分については、執筆者の実費とする。

7. 著作権

投稿された論文の著作権は著作者が有する。

著作権者は該当論文が「吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要」に掲載され、発行・頒布されることを許諾したものとする。なお、これには「吉備国際大学政策マネジメント学部研究紀要」として電子化し、公開することを含めるものとする。

附 則 この投稿要領は平成16年4月1日より施行する。

附 則 この改訂投稿要領は平成17年4月1日より施行する。